

第一步「まちづくりって何？」

～まちづくり、ワークショップについて考える～

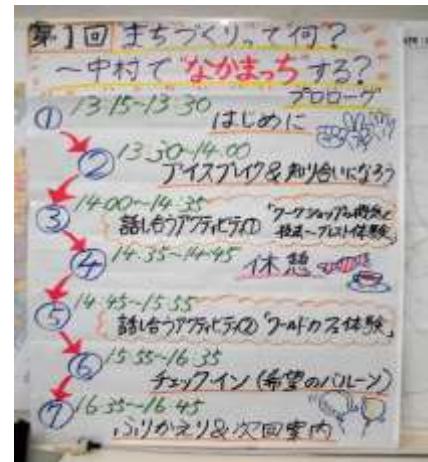
日時：平成 25 年 9 月 14 日（土）

場所：千成コミュニティーセンター

時間：13 時 15 分～16 時 45 分



まだまだ残暑厳しい 9 月中旬、講座の一歩目が千成コミュニティーセンターを会場としてスタートしました。今回の講座は、中村区役所との共催で中村公園周辺をモデルに、受講生みんなで思っていることや感じていることを話し合ったり、実際にまちを歩いたりしながら、合意形成やワークショップなどのまちづくりの手法を学び、体験する全 5 回の講座です。



講座の企画・運営スタッフとして、名古屋都市センターと中村区役所職員の他に、中村土木事務所、過去の養成講座を修了した“まちづくりびと”のメンバーにも加わってもらいました。

また、講座全体の講師及びアドバイザーとして、株式会社対話計画代表 葛山稔晃さんにお願いしました。今後、このメンバーで分担しながら講座当日の運営も行なっていきます。

はじめに オリエンテーション



最初の会場の配置は、受講生、スタッフも含め約 40 個のイスがぐるりと円形に並んでいました。

座ってみると自分の前には何も遮るものではなく、受講生同士の顔が見渡せるような円形の配席です。席順の決まりはなく集まり始めた受講生は、思い思いの場所に座っていました。

はじめに当センター参事の青木より挨拶がありました。市民参加型のまちづくりの中心となる人材の育成が大切だということ、今回の講座は、当センターのほか中村区役所やまちづくりびと等の協力のもとに準備を行なってきたこと、ファシリテーターなど聞き慣れないカタカナ言葉も多いかもしれないが、楽しんで参加していただきたいことなどという話がありました。



続いて、配布資料の確認、受講にあたってのお願い、講座全体の予定及び講師並びにスタッフの紹介などを行いました。

受講は、37 名の方から申し込みがあり、地元中村区在住の方を始め他の区や市外（市内在勤）、さらには県外（岐阜県）からもまちづくりに興味のある方々が集まっていました。

（当日の受講生は 30 名）

はじめは、顔を合わせたばかりで皆さん少し緊張した面持ちでした。

アイスブレイク&知り合いになろう！

あと出しじゃんけん、心理テスト

ここからは講師の葛山稔晃さんによる講座進行となりました。

初顔合わせの緊張した雰囲気や不安感を和らげるため、アイスブレイクを行いました。

まずは、「あと出しじゃんけん」というアクティビティです。葛山さんの右手と行うじゃんけんは、あと出しで「勝つ」ように、左手と行うじゃんけんは、あと出しで「負ける」ように、自分の手を出します。

正しい手を出すために、しっかり考えなければならぬのですが、間違えてしまったり、思わず真剣になってしまったりして、の笑顔が自然とこぼれていきました。

次に、簡単な心理テストを行いました。質問に答えると、自分が大切にしているものがわかる、というものです。家族を大切にしている人もいれば、お金を大切にしている人もいたり、ちょっと恥ずかしくなる結果の人もいて、先ほどよりも更に笑顔が増えていきました。

緊張もほぐれてきたところで、名札にニックネームと○△×を使った似顔絵を描き、それぞれ順番に自己紹介を行いました。



「アイスブレイク」

アイスブレイクの意味はアイス（氷）をブレイク（壊す）という意味で、知らない人が集まつた際に、その場の雰囲気を和らげるために行われるちょっとしたゲームやクイズ、運動などのことです。何かを始める前に行うと緊張した気持ちの柔軟体操のような効果があります。

話し合うアクティビティ①

ワークショップの概念と技法、ブレスト体験



今度は受講生を7グループに分けて、あるテーマについてアイデアを出し合いました。

お題は「もし、中村区を舞台にした朝ドラをつくるとしたら」です。各自、朝ドラの舞台やキャスト、ストーリーについて、自分のアイデアを付箋に書いて、模造紙に貼り付けていきます。さらに、メンバーそれぞれの意見を考慮した上で、グループとしての朝ドラの簡単なストーリーをみんなで話し合っていきます。

15分ほどこの作業をしたのち、各グループの朝ドラのストーリーを発表しました。短時間の作業だったので、なかなかストーリーがまとまらなかったグループもありましたが、「秀吉」や「まちおこし」、「中村公園」など、中村区にちなんだワードも多く出ていて、それぞれのグループの個性にあふれたストーリーがたくさん生まれていました。

「ブレインストーミング」

この作業は紙とペンだけで簡単にできるもので、1つのワードだけよりは、より多くのワードを引き出すことによって、意外なアイデアが生まれたり、結びついたりします。これはアイデア発想法の1つで「ブレインストーミング」と呼ばれます。

話し合うアクティビティ②

ワールドカフェ体験

休憩の後、2つ目のアクティビティとしてワールドカフェ体験を行いました。

ワールドカフェとは、与えられたテーマについて討議したあと、各テーブル一人を残して全員が他のテーブルに散り、引き続き同じテーマで討議する。何回かこの移動を繰り返し、最後は元のテーブルに戻り、他のグループで出た意見について更に話し合うというものです。



今回は3回のグループ移動でテーマは「中村区でどのようにまちづくりをしていきたいか」ということです。

最初の討議の前に、中村区役所より、中村区について簡単な紹介と説明がありました。中村区について少し知識を入れた上で、各グループで最初の討議を行いました。20分ほどの討議ののち、ホストを1名残して、他のグループへ旅人となって移動します。ホストは自分たちのグループで出た意見について説明し、旅人たちは、自分たちのグループで出た意見について発表していました。グループによって、着目しているところや、視点が違っていたりして、様々な意見が集まりました。



最後に、自分たちの元のテーブルに戻り、他のテーブルで聞いた意見について発表していました。最初の討議のときにアイデアを出した模造紙が、戻っていたらたくさん意見で埋まっていて、驚く場面もありました。しかし、立場や考え方の違いから、意見が正反対の方向性になっているようなものもあったりして、多くの人の考え方を一致させ、ひとつにまとめていくことの難しさも体感しました。

チェック・イン

希望のバルーン

最後に、ワールドカフェで話し合った内容もふまえ、前に貼ったバルーンシート（模造紙）に自分の風船カードを貼り出しながら、ひとことスピーチ（所信表明演説）を行ってもらいました。

所信表明で述べられたこの講座の目標には、「中村区をもっと知りたい」や「もっとまちづくりについて知りたい」、「他の市民の意見を聞きたい」など、十人十色のものがあげられていました。

全員のスピーチが終了したところで、スタッフより次回の講座の案内、今回の講座のアンケート等を行い、一步目の講義を終了しました。

中村区のまちづくりに対し様々な意見の飛び交う場面もみられ、受講生にとって次回からの講座への足掛かりとなる貴重な一步目だったと思います。



アンケートより、全体を通じた意見・感想など

- ・これからも楽しく参加できることを願う。自分にも楽しく、皆さんと！
- ・老若男女楽しい集いで勉強になります
- ・ちょっと忙しい、時間的に…
- ・すごく参加型で楽しかったです
- ・自分の想いを語ることも、他者の想いを聞くことも楽しい
- ・知人に勧められて参加しました。いろいろな意見が聞けて参考になりました。町内散策をして、皆さんと町の活性化について考えたいと思います。
- ・遅刻をしてきたので、申し訳ないです
- ・老若男女色々な方がいらっしゃって面白い
- ・時間が少ないといました
- ・スタッフの皆様、お疲れ様でした
- ・初めての参加で戸惑いも多かったです、いろんな人の話し合いはよかったです。こういう活動に積極的に参加していこうと思います。
- ・まだこれからですが、楽しみにしています
- ・他の意見を聞き、自分と違う考え方を得ることが出来ました
- ・とても楽しく学べました
- ・夢を持っている人の集いでした
- ・若者の意見を聴けて良かった
- ・お話を聞くだけかと思っていたが、そうでもなく、とまどっています
- ・遅刻してしまい大変申し訳ありませんでした。いろいろな意見を吸収して、自分からも発信していくたいと思います。
- ・貴重な機会をありがとうございました
- ・たくさん話す時間があり、楽しかったです
- ・後半のアクティビティの尺が短い
- ・次回以降が楽しみです
- ・多くの方々が同じように問題意識を持っているように感じました。
- ・楽しかったです。ありがとうございました
- ・もうちょっとスケジュールをゆるく（内部が多すぎかも）した方がいいかと
- ・色々な人がいるので楽しみです

